

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2011.6.1

No.83

四月二十七日に一人のクリスチャンが事故で亡くなりました。彼の名はデービッド・ウィルカーソン。アメリカでは名の知れた牧師でした。

一九五八年、田舎の教会で牧師をしていた彼は雑誌「ライフ」の一枚の写真にくぎ付けになります。七人の若者が殺人罪で起訴されたという記事でしたが、彼は彼らを救済する手助けをすべきだと感じたのです。

ニューヨークに乗り込んだ彼は法廷で少年たちの味方をするような態度を取り、新聞記者たちの格好のネタにされます。新聞に聖書を掲げた彼の写真が掲載されたのです。これまたやむにやまれない思いでハーレムの貧民窟に向かった彼は、抗争、飲酒、麻薬、盗みなど、若者のギャングの現実を見せられます。自らも脅され、盗まれ、叩かれながらも何とか彼らに神の愛を伝えようとします。次第に「自分たちのことを親身に考えてくれる変わった牧師」と言うことで徐々に受け入れられていくようになりまし

た。
マウマウ団の親分で一際彼を憎むニッキー・クルズという若者がいました。両親は悪魔礼拝を行い、彼を虐待し続けていました。まさに「愛される」という経験をしたことがないものだったのです。「ぶっ殺す！」と突っかかって行った

どんな人をも一変させる聖書の力



ニッキーにデービッドは言い返したのです。「もし、君が僕を殺して何十に切り刻んで捨てても、その一つ一つが叫ぶよ。『愛している』とね。」その後、他の

クリスチャンの助けも借りながら、働きを続けそんな若者たちを対象にした福音集会を劇場で開くことにしたのです。敵同士のギャングが集まり、冷やかしの、妨害、騒々しさなど壮絶な状況でした。そういう状況でデービッドはニッキーたちに献金を集める箱を持って聴衆の中を回るようにお願いしました。会場の若者たちは集めた後でお金を持って逃げることを予想し、呆れていたのです。ところがニッキーたちはお金に手を付けずに、壇上に戻ってきました。彼らの心に変化がもたらされたのです。それまで何度も聞いてきた「神の愛」を悟り始めたのです。神は罪は憎むが、罪人を愛しておられる。罪を捨てて、救いを有意しておられる神のもとに帰ってくるように、神は招いておられるということを受け入れたのです。神を信頼するものには、神が「私たちを変える力」を与えてくださるといふことを彼らは信じました。そして変えられたのです。ニッキーははつきりイエスを信じ、後に牧師になります。

後のインタビューで彼は「デービッドはお金を集めるといふ仕事を任せて、僕たちを信頼してくれた」と言っています。多くの若者がイエスを信じて劇的に変えられ、これを機

に大変な境遇にいる若者たちに神の愛を伝え、実際にサポートしていこうという活動が広がっていったのです。

この奇蹟的な出来事が「十字架と飛び出しナイフ」という本で紹介されました。三十以上の言葉に翻訳され千五百万冊以上売れたベストセラーになりました。後に映画化もされます。

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(第二コリント五章十七節)

聖書の力は何と言ってもどんな人生をも変えることができるということです。これは感覚や理論を越えた紛れもない事実です。そして、私たちはギャングのようではないものの、神の前で赦され、新しくされる必要がある罪人なのです。

デービッドは、七十九歳で召されるまで多くの人に単純に、大胆に神の福音を語り告げました。彼の最後となったブログには次のように記されています。

「谷間と死の影の中を通っている人たちへ。次のことばを聞いてください。涙は暗く、恐ろしい夜を通じて続くかもしれません。しかし、まもなく父なる神さまからのささやきを聞くでしょう。」

「わたしはあなたと共にいます。(今の状態が) どうしてか今は話せませんが、いずれわかるようになります。すべてはわたしの計画の中であり、偶然は決してないのです。」

ユース・フェローシップツアー E

五月三日から五日のゴールデンウィークに生駒山麓公園に行きました。以前に一度家族で行ったことがありましたが今回は教会のキャンプで行って来ました。生駒山麓公園は自然に囲まれた施設で、創造主で在られる神を思わずにはおられませんでした。

テニスコートやアスレチックなどいろいろあり、バーベキュー場もありました。山麓公園に着いたのがちようど昼食の時間で、みんなで鳥の丸焼きを作りました。鳥の丸焼きは生の時に塩コショウで味付けをします。それは鳥の外側だけじゃなくて内側も味付けしなければならぬので、鳥の体の中に手を入れてもまなければなりませんでした。触感が気持ち悪かったです。それから約四十分焼き続けたら出来上がりです。食べてみたらとてもおいしかったです。普段体験できないことなので楽しかったです。

レクリエーションの時、初めてマジックショーをさせてもらいました。初めはとても緊張しましたが、みんなが盛り上げてくれて大成功でした。

聖書メッセージの時も祝福され、今回のキャンプで「聖書」を読むことがどんなに大事かということをお伝えされました。テニスやサッカーなどもできて、二泊三日でしたがとってもいいキャンプでした。



A ファミリーと一緒に水ぎょうざをつくりました。自分たちで作ったものはまた格別においしい! ↓



日曜学校で作った「なすび」模様入りホットケーキ。予想以上に上手にできました。→



こんなことしました! 行事報告

五月

三〜五日 ふれあいシャロームツアー (Y&R)

ユース・フェローシップツアー (M・H・N・E)

四〜五日 阿倍野バイブルキャンプ (K)

十一日 M・十九歳誕生日

十四日 K 姉とS 姉来訪

十七日 塗り絵・工作教室 (モービルを作る)

二十五日 祖父誕生日会

二十六日 海遊館見学

二十七日 創造論ヤングセミナー

二十八日 日曜学校遠足 (市立科学館)

三十日 Aファミリー来訪

海遊館

N

五月二十六日、私とRはMさんに海遊館に連れて行って頂きました。小学生の時以来行ってなかったので、久しぶりの海遊館でした。

一番印象に残ったのはラッコで、可愛い表情やおもしろい動作が気に入りました。また、最大級の巨大水槽で、海遊館の人気者、ジンベエザメの悠然と泳ぐ姿を見ることが出来ました。泳ぐのが嫌いな私も魚みたいに気持ち良さそうに泳いでみたいと思っただほど格好良かったです。(笑)

またふれあいコーナーでは「イヌザメ」「ネコザメ」「トラフザメ」「ホシエイ」「アカエイ」など大型のサメやエイが展示されており、実際に触れることができました。サメとエイはどちらも見た目は違って、ザラザラ、ヌルヌルしていて、今まで触ったことのないような感触でした。

ちようど高卒認定のために、生物を勉強しており、魚について学んでいたため、実際に魚を見る、また触れることができたことは本当に良い機会になったと思います。

Mさん、楽しい思い出をありがとうございました。

編集後記

今年のGWは教会始まって以来初めて二つのグループに分けて行動しました。若者遊び中心コースと大人ゆったり観光コースでした。阿倍野のセミナーの講師としてKは参加しました。五日の夜に再び集まってお互いの自慢大会をしました。